

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 6年 3月 22日

事業所名 放課後等デイサービスMIRAIE

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	6 (100%)		活動内容に応じ、大小4つの部屋を使い分けている。	クールダウンが必要な時やゆっくり過ごしたい児童の為の場所として、個室や和室を活用。また、 unnecessaryな物を置かずスペースを確保している。
	2 職員の配置数は適切である	6 (100%)		人員配置基準は満たしており利用者数に応じて職員数を設定している。	基準の人員に加配をつけ、常時4~6名で支援を行っている。
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	5 (83%)	1 (17%)	階段や段差はあるが、利用児童に応じた配慮を行っている。	玄関前に階段があるが、手すりを設置。室内床面はできる限り段差をなくしている。今後必要に応じて検討していく。
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	6 (100%)		ミーティング時だけでなく、日々の打ち合わせ時などでも随時行っている。	目標を設定し、その目標に向けて日々の支援を行っている。ミーティングの回数を増やしたり、日々の打ち合わせの時間を確保することで内容の充実ができています。
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	6 (100%)		集計後には、結果を踏まえた検討を行っている。	ミーティング時に公表し、改善策に繋げる検討会を行っている。嬉しい内容が多くあり、職員のモチベーションの向上にもつながっている。
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	4 (66%)		未回答2 会報とHPIにて公開している。	集計後には結果を配布しており、HPIにも掲載している。
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	1 (17%)	3 (50%)	未回答2 現在は行っていない。	外部から評価されることにより、問題点や課題が明確になると思われる。今後は必要に応じて検討していく。
	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	6 (100%)		内部研修、外部研修共に積極的に参加している。	月に一度は内部研修を行っている。外部研修を受けることによりスキルアップにつながっている。
適切な支援の提供	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	6 (100%)		児童発達支援管理責任者が中心となり作成している。	アセスメントに関しては、内容細かなツールを使用し時間をかけて適切に行っている。また、チームで出た意見や保護者様との日頃の会話の中からもニーズをくみ取り、個々に合わせた計画作成を行っている。
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	6 (100%)		生まれた時から現在に至るまでが把握できる統一されたシートとなっている。	内容が変更になったときは随時更新を行い、最低でも年一度は事業所にて定期的なアセスメントの更新を行っている。
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	6 (100%)		立案に基づき、ミーティング時にチームで内容の検討を行っている。	活動リーダーを選定することで、職員全員が担当となり、複数の視点で新しい活動やいろいろな挑戦ができるようになっていく。
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	6 (100%)		季節や行事を大切にし、様々なことが経験できるようにプログラムを考えている。	同じ内容でも、難度やねらいを変えたり、成長や発達の状態に合わせたプログラムが提供できるよう検討している。
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	6 (100%)		平日と休校日では活動内容を大きく変えて、設定している。	休校日には平日できないことを、また、平日には短い時間の中での達成感等個々に課題を設定して支援を行っている。
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせさせて放課後等デイサービス計画を作成している	6 (100%)		個別活動と集団活動は毎日行うことができている。目標に沿った計画を作成している。	計画書は児童発達支援管理責任者が中心となり作成。個々の課題を療育活動に組み込んでおり、計画にも反映されている。
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	6 (100%)		毎日、朝礼時打ち合わせを行っている。出勤時間が違う職員にも、申し送りができている。	毎日朝礼を行うことで、前日までの申し送りや本日の注意事項、役割分担など、全職員が把握できるようになった。パート職員にも申し送りを行うことができている。
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	6 (100%)		終礼を行うことで、その日の振り返りや課題、保護者様からの申し送り等を共有している。	終礼に参加できない職員の為、また申し送り事項として終礼の記録を作成。全職員が共有できるようにしている。
	17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	6 (100%)		個々の記録を作成し、課題や改善策を検討できている。	個々の日々の記録にあわせて、目標達成度を含めた支援目標に対しての記録も作成している。次にどう改善するか検討することができる。
	18 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	6 (100%)		定期的にモニタリングを行い、見直しの必要性を判断している。	児発管が中心となって、定期的にモニタリングを行っている。MIRAIEでの様子、ご家庭での様子を共有し、必要に応じて計画の見直しを行っている。今後はさらに全スタッフがモニタリング会議に参加できるようにしていきたい。
19 ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っている	5 (83%)		未回答1 ガイドラインに沿った支援を行っている。	定期的(ミーティング時)にガイドラインの再確認を行っている。全スタッフがガイドラインの内容を熟知できるよう、引き続きガイドラインの確認を行いながら、それに沿った支援を行っていきたい。	

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標	
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	6 (100%)		児発管を中心に、必要に応じて管理者、保育士も参加している。	児発管以外の職員も参加することで、色々な視点からの意見がある。職員スキルの向上にもつながっている。今後も引き続き行っていきたい。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	6 (100%)		学校によって情報交換の方法は異なるが、月の利用状況を報告したり、学校のルールに従い連絡調整を適切に行っている。	特別支援学校ではネットワーク会議に参加させていただき、適切な連絡調整をすることができている。普通小学校でのルールは様々だが、お迎え時に担任の先生と話せる環境ではある為、引き続き行っていきたい。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	6 (100%)		医療的ケア児だけでなく、連絡がいつでもできるように努めている。	現在、医療的ケアが必要な児童はいないが、服薬等がある児童は保護者様から主治医や病院の連絡先を伺い、緊急時の対応に備えることは出来ている。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	6 (100%)		就学前の事業所よりアセスメント等をいただき、ご利用開始までに児童が居ることがないように努めている。	新入学の児童には、できるだけ在園児の情報共有ができるように、保護者様を介してお願している。情報共有が出来ている児童に関しては、就学後の移行がスムーズに行えている。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	6 (100%)		担当者会議や電話連絡などで、支援内容の共有や現在の児童の情報の提供を行っている。	卒業後にスムーズに移行が行えるよう、当事業所へ見学に来てもらうなど情報提供を行っている。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	6 (100%)		専門機関と連携を行ない、また、出来る限り研修にも参加している。	研修に参加することで、得た情報を活かして支援を行うことができている。今後も、積極的に参加していきたい。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	3 (50%)	3 (50%)	機会は少ないが、公園遊びを通して、他校の児童や近隣にお住まいの子どもたちと活動することがある。	地域、校区での行事や、地域の公園での交流はあるものの、機会は少ない。今後は、検討していきたい。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	3 (50%)	2 (33%)	未回答 ¹ 開催時間が支援時間と重なり、参加が難しい。	支援に影響しない範囲で参加に努めているが、今年度は参加できなかった。今後は、参加できるよう検討していく。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	6 (100%)		連絡帳や送迎時を活用し、報告の上共通理解に努めている。	連絡帳や送迎時では伝えきれないことは、メールや電話、または訪問をさせていただき、共通理解に努めている。日頃のコミュニケーションにより信頼関係を築いていけるよう、引き続き努力していきたい。
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレントトレーニング等の支援を行っている	4 (66%)	1 (17%)	職員の経験を活かして、必要に応じて助言やアドバイスを行っている。	保護者様の意向を踏まえて、助言やアドバイスを行っている。また、家庭環境にも目を向け支援している。	
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	6 (100%)		契約時に時間をとり説明をしている。	契約時には内容が多いため、確認しながら説明を行っている。また、問い合わせがあれば丁寧に説明するよう心掛けている。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	6 (100%)		相談があった時は、傾聴し必要な助言を行う。また、ケース会議にて全職員に周知することとしている。	保護者様からの相談は、職員間で共有し、助言と支援を行っている。今後も、引き続き保護者様と一緒に解決策を考えていきたい。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	6 (100%)		今年度は、保護者向けのお花あそびと座談会を行った。	初めての開催で、告知方法や時期(曜日時間など)の関係もあつてか、参加される方は多くはなかったが、当日はOB、OGの方にも参加いただいたり、参加された保護者の皆様からも喜びの声をいただくことができた。来年度にも行う予定で進めている。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	6 (100%)		苦情となった場合には、迅速に対応できるように努めている。	改善すべきことがあればすぐに対応し、情報共有を行い、問題解決を行っている。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	6 (100%)		毎月の活動予定表、ブログ、SNS等で日々のご様子を定期的に発信している。	以前から要望が多かった、インスタグラムを始動。来年度には会報を定期的に発行予定である。
	35	個人情報に十分注意している	6 (100%)		十分注意している。	SNS等の発信の際は細心の注意を払い、ダブルチェックを行っている。また、個人情報を含む書類等は保護者様に直接お渡しを行う等、十分に注意している。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	6 (100%)		個々の特性に応じて対応している。	日々、伝わりやすい方法を検討しており、個々に合わせたコミュニケーション方法で行っている。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	4 (66%)	2 (34%)	招待とまではいかないが、ハロウィン開催を行った。	地域住民を招待するということではないが、ハロウィンを開催した際、近隣のお子様たちが気軽に立ち寄れるように、ハロウィン開催の看板やお菓子を準備し、行事に参加いただくこともあった。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	6 (100%)		マニュアルを準備し、全職員へ周知している。	職員へは、ミーティング等を活用し定期的に周知している。また、随時、内容の見直しや確認を行い、周知徹底していく。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	6 (100%)		いつでも非常事態に対応できるように、日頃から活動の一環として組み入れている。	活動の一環として、2～3か月ごとに、災害種別ごとの避難訓練を組み入れている。今年度は、訓練に加え非常食の試食を行った。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	6 (100%)		虐待防止担当職員により、研修会を行っている。	年に数回、担当職員による研修会を行っている。今後も、定期的な研修会等を行うことで、虐待防止につなげていきたい。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	6 (100%)		身体拘束を行わないことが前提ではあるが、児童の安全を優先にすることは保護者様にお伝えしている。	パニックが強くなる、または離脱、飛び出しの危険がある児童に関しては、安全を優先することを保護者様にご理解いただく為、事前に説明を行うこととしている。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	6 (100%)		職員間でも共有、一目見てわかるように掲示している。	アレルギーに関して、職員間で共有を行っているが、個人個人の食食用マット(ランチョンマット)に記載を行い、ダブルチェックできるようにしている。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	6 (100%)		回覧、またはミーティング時に再共有を行っている。	ヒヤリハット記入用紙を簡素化し、レ点項目を多くしたことにより記入しやすくなった。全職員で共有し、次に同じヒヤリハットが出ないよう、全員で改善策を検討している。